

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 岡山市立京山中学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒700-0087
岡山県岡山市北区津島京町1-7-1

E-mail : kyoyamac7@city-okayama.ed.jp

Website : www.city-okayama.ed.jp/~kyoyamac

児童生徒数：男子 477 名 女子 381 名 合計 858 名
 児童・生徒の年齢 13歳～15歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

総合的な学習の時間や教科等との連携を踏まえ、「環境学習」「平和学習」「人権・国際理解学習」の視点を中心に、地域に誇りを持ち、地球的視野で未来を考え、地域のために社会貢献できる生徒の育成をめざした取り組みを行った。特に、「つながり」「かかわり」をキーワードに、地域の「人・もの・こと」を活用し、地域との連携を深める手立てや仕組みをつくるよう努めた。さらに、様々な持続可能な社会の課題と向き合い、活動を通して生まれた人々との絆を大切にしながら、問題解決的な学習や参加体験的な学習を通して、地域が直面している問題に向き合い、多様な価値観を認め尊重するよう取り組んだ。そして、地域の人に総合文化発表会や京山フェスティバル等で、活動の成果を提案・発表した。

(1) 「環境学習」の取り組み

3年生で、環境を自己テーマの中心に据え、地域に提案・発信をすることを目標として探究活動を行った。テーマ設定から脚本、演出、演技に取り組んだ創作劇「We Live On The Earth～未来のわたしと未来のあなたと」の上演や、学年代表によるグループ発表で、防災をテーマにした「京山に地震」「南海トラフ地震の恐怖」、森林問題をテーマにした「人は切らぬ…森林伐採～HARUKI～」、省エネ問題をテーマにした「京山★未来」、地域の特色をテーマにした「京山おもてなし課」等、多くの発表やワークショップを行った。

(2) 「平和学習」の取り組み

2年生での広島研修に向け、1年生の11月から「なぜ平和を学ぶのか」「日本、世界が経験した過去の戦争」「戦争が奪うもの」等について学習を進めた。「広島平和宣言」の学習を導入として、「はだしのゲン」の視聴を通して「戦争が奪うもの」について学習した上で、テーマ学習から個人のまとめ発表へとつなげる。2年生では、広島研修に向けて広島でどんな学習や体験ができるかを考え、テーマを設定しコース選びや時間配分等を決め、広島でのフィールドワークを行った。「なぜ広島に原子爆弾が落とされたのか」「被害や惨状、被爆された方たちへの差別」「被害から復興する力強さ」等について知識だけでなく心でしっかりと受け止める学習となった。「被爆者の話」「被爆ピアノによるコンサート」「大久野島での毒ガス製造の話」等の講演を真剣に聞き、「平和や核廃絶」「自分たちの未来」「自分たちにできる平和活動」について考える礎とした。1年生からの学びに広島での体験とテーマ追究に加え、総合文化発表会で、ICTを活用した発表・ポスターセッション・展示発表の形式で、グループ毎に調べまとめたことを発表した。2年生全員が演劇と合唱で、平和へのメッセージを伝えた。3年生では、修学旅行において知覧特攻平和会館を訪れ、前年度からの平和学習のまとめをした。

(3) 「人権学習」の取り組み

1年生での「福祉」に関する調べ学習や講演会、ハンセン病の学習を受けて、2年生では心の病気「統合失調症」に取り組み、統合失調症についての正しい理解や病気を取り巻く差別・偏見等について学習した。そして、中学校区にある当事者の方をサポートする施設の方や当事者の方との交流を通して、共に生きることの大切さや病気への勝手なイメージや思い込みで差別してはいけないことなどを体感した。3年生では、「いのちを育む授業」への取り組みで、プレママ・プレパパ体験や実際に赤ちゃんに触れ合う交流活動、親子間で創る「親守詩」の活動を通して、親子のつながりやいのちの大切さを再認識した。

(4) 「国際理解学習」の取り組み

昨年度に引き続き、6月に行った姉妹都市サンノゼとの交流事業では、生徒会や部活動による紹介と交流を行い、一緒に部活動に参加するなど、英語をツールとして交流を深めた。10月には、3年生が中心になって北方四島交流事業の訪問団を受け入れた。事前に北方四島について学んだり、簡単なロシア語を練習したりした。当日は、クラス毎に日本の伝統的な遊びを通じた交流やそれぞれの文化についての質問や紹介等を行った。その後、体育館で3年生による学年合唱や吹奏楽部による演奏、ダンス部のダンス等の披露を行ない交流を深めた。ロシア語が話せなくても、ジェスチャーや文化交流で国際理解が図れることを知るとともに、通訳を通じた意見交換会により

さらに国際理解が深まった。こうしたコミュニケーションと感動を伴う実体験は生徒にとって有意義なものとなった。

また、英語科を中心として、ESD の視点を拡張した教科横断型の単元学習プログラムを実践した。一例を挙げると第3学年で美術科・技術家庭科・道徳との連携を図り、岡山県環境保全事業団アスエコ、JICA、スーダン、石原果樹園などの専門機関のゲスト講師とともに食料問題について授業を行った。英語科のリーディング教材“A Vulture and a Child”を学習する際に、「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」(国教研)のうち、「批判的に考える力」「未来像を予測し計画を立てる力」「多面的、総合的に考える力」「コミュニケーションを行う力」を明確に位置づけて取り組んだ。生徒はまとめでの英語プレゼンテーションにおいて、発表原稿の英文エッセイを書く力、発表を聞く力、自分の考えを話す力などを育むとともに、国際社会でいかに行動すべきか、世界の諸問題はさまざまな要因が絡み合っていること、未来は自分たちの行動で変えられることなどに気づくことができた。この取り組みの様子や成果を学校全体の校内研修や公開授業で共有したことの意義は大きい。現在、ESD の視点で拡張した単元プログラムの構築を全教科で取り組んでいる。

(2) 活動時間について(下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他()